

東京芸術劇場シアターオペラvol.13 全国共同制作オペラ

ヴェルディ 歌劇『ラ・トラヴィアータ』(椿姫)

(日本語字幕付原語上演)

指揮:ヘンリック・シェーファー 演出・振付:矢内原美邦 ヴィオレッタ:エヴァ・メイ



ヘンリック・シェーファー

矢内原美邦



エヴァ・メイ

インタビュー 矢内原美邦

矢内原美邦が放つ、 見たことがないようなオペラ

名作『椿姫』が国際的なクリエイター集団、ニブロールを主宰する

振付家、劇作家、演出家の矢内原美邦の手で生まれ変わる! オペラ初演出の鬼才に抱負を聞いた。

死から回想する生——それが『椿姫』の魅力

ダンス・演劇を中心に幅広く活躍するがオペラ初演出に喜びを隠さない。

「ヨーロッパの振付家・演出家の友人たちはオペラを演出しているので自分もやりたかったんです。『ラ・トラヴィアータ』(椿姫)は挑戦する価値があります」

主人公のヴィオレッタは19世紀のパリに生きた高級娼婦で、青年貴族アルフレードとの恋に落ちるが破局し病をわずらって死んでしまう。

「ヴェルディのオペラから生と死が交差し繋がる感覚を覚えました。ヴィオレッタが人生を回想するように描きます」

戯曲や小説を読み返すうちにヴィオレッタの心情にあらためて共感し、旧来の視点とは異なるように演出する。

「凄く弱い立場のヴィオレッタが愛を知り、迷いながらも生きて夢をつかんでいく——。前向きに生きる強い女性として描き、男性からも女性からも『このように生きたい』と思ってもらいたい」

空間を自由に動かし、今を生きる人々に訴えたい

舞台設定を現代に置き換え「世界のどこでもあって、今を生きる人々が登場する」という。その世界観を衣裳(田中洋介)、映像(高橋啓祐)、美術(松生紘子)と共に創り上げる。

「美術は空間を仕切って自由に動かせるようにして、スクリーンにはニブロールの高橋くんの映像を投影したい。衣裳は人物によって色分けし、要らないものをたくさんつけている人ほど社会に縛られていることを表すようにします」

もちろん音楽に心を配る。

「音楽はマエストロ(指揮のヘンリック・シェーファー)にお任せしますが、歌をどの

ように歌うのかは重要です。力強く歌うのか、悲しげに歌うのか、なにか遠いことを思っているのか…。ヴィオレッタを強い女性として描くアプローチをしていきたい」

多様なアイデアを集めて創る新しいオペラ

オペラ演出は肌に合うようで意欲満々なのが頼もしい。

「動きに情報量を入れたいので複雑になりがちですが、ヴィオレッタ役のエヴァ・メイさんは世界的な歌手なのに何にでも積極的に取り組んでくださる方だと聞いていますし、日本の歌手の方々も積極的に挑んでくれると思うので、皆さんにも納得してもらえたい演出にしたいですね」

オーディションで選ばれた5人の俳優・ダンサーも出演し、またコーラスにも振付する。

「5人にはコーラスを引っ張ってもらいます。コーラスは群衆ですが、この作品ではとても重要なので、ただ立っては歌わせません」

会場ごとに空間はもとよりオーケストラやコーラスが変わり、その違いを楽しめる。

「白河文化会館コミネス、金沢歌劇座と東京芸術劇場ではコーラスの人数も変わります。演出が微妙に変わるので、その場所ではか起こり得ない何か生まれるかもしれません」

稽古、本番に向けて志気は高まるばかりだ。

「見たことがないようなオペラにしたい。アーティストたちから出てくるアイデアを拾い集め、新しい考えを取り入れて演出していきます」

新解釈と自在な発想による画期的な『椿姫』の誕生にぜひとも立ち会いたい。

文:高橋森彦(舞踊評論家)

2020年2月22日(土) 14:00開演 コンサートホール

詳細はHPへ

指揮:ヘンリック・シェーファー 演出・振付:矢内原美邦

管弦楽:読売日本交響楽団 合唱:新国立劇場合唱団 ヴィオレッタ:エヴァ・メイ ほか

白河、金沢公演あり

第10回 音楽大学オーケストラ・フェスティバル2019

11月23日(土・祝)・12月1日(日) 15:00開演 ミューザ川崎シンフォニーホール

11月30日(土)

15:00開演 コンサートホール

詳細はP16へ

首都圏の音楽大学生たちが東京芸術劇場コンサートホールとミューザ川崎シンフォニーホールに集う「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」。今年のは上野学園大学&国立音楽大学(11月23日)、昭和音楽大学&東邦音楽大学&桐朋学園大学(11月30日)、東京音楽大学&武蔵野音楽大学&洗足学園音楽大学(12月1日)の組み合わせで、3日間にわたり開催します。